

福島第一原子力発電所の状況

2016年2月8日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/8 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 2.6 m ³ /h	14.3	2.05 kPa g	A系： - vol %
		炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h			B系： - vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.8 m ³ /h	19.1	2.85 kPa g	A系： 0.00 vol %
		炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h			B系： 0.00 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.9 m ³ /h	17.3	0.22 kPa g	A系： 0.08 vol %
		炉心スプレイ系：約 2.3 m ³ /h			B系： 0.08 vol %

[1号機]

・原子炉格納容器ガス管理設備については、当該設備の信頼性向上を目的に、改造工事を行うため、当該設備の停止を計画している。

当該設備については、特定原子力施設に係る実施計画「特定原子炉施設の保安」(以下、「実施計画」という)第1編第24条において、運転上の制限として「原子炉格納容器ガス管理設備の放射線検出器が1チャンネル動作可能であること」が求められている。

そのため、設備停止中は、上記の運転上の制限を満足しない状態となることから、実施計画第1編第32条第1項(保全作業を実施する場合)を適用し、計画的に運転上の制限外に移行して作業を実施する。

当該設備の停止予定日は以下のとおりであり、作業日毎に当該設備を停止し、作業終了後に復旧する。

< 停止予定日 > 2016/2/8、9、10、11、12

2016/2/8 9:41 ~ 作業開始。

< 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (2/8 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	10.8 ¹
2号機	循環冷却システム	運転中	25.5
3号機	循環冷却システム	運転中	17.6
4号機	循環冷却システム	運転中	6.3

各号機 SFP および原子炉ウェルヘドラジンの注入を適宜実施。

1 使用済燃料プール代替冷却システム停止中のため、至近のデータ(2/5 11:00)を記載。

[1号機]

・使用済燃料プール代替冷却系について、当該系統の弁点検のため、2/5 14:37 に冷却を停止(2/17 18:00 までの約 292 時間停止予定)。冷却停止時の SFP 水温度は 11.1。冷却停止期間における SFP 水温度上昇率は 0.055 /h で、停止中の温度上昇は最大で約 16.1 と評価されることから、運転上の制限値 60 に対して余裕があり、SFP 水温度の管理上問題ない。

< 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/8 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 4 . その他 >

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。
- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- ・2016/1/21～ H4エリアにおいてフランジ型タンクの解体を開始。
- ・各建屋に接続しているトレンチ・ダクト内の滞留水状況調査の一環として、2015/12/3に採取した廃棄物処理建屋間連絡ダクト滞留水の、放射性物質濃度分析結果が上昇。原因調査のため、2016/1/19から1/21にかけて当該ダクトからプロセス主建屋への滞留水の移送を実施。その後の調査において、滞留水移送後の連絡ダクト滞留水の水位および水質に変化は確認されていない。このことから、更に水位を低下させて調査するため、2/2 9:42～2/6 11:10 仮設ポンプによる当該ダクトからプロセス主建屋への滞留水移送を実施。
- ・構内において発生した雑固体廃棄物を焼却処理するため、雑固体廃棄物焼却設備を設置し、汚染のない模擬廃棄物を用いた焼却試験を進めてきたが、当該設備の性能に異常のないことが確認できたことから、2/8 16:05～汚染のある雑固体廃棄物を用いた焼却試験(ホット試験)を実施。2/18まで目途。

[1号機原子炉建屋カバー解体作業]

- 1号機原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体作業を開始。
- ・2015/5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。
7/17 7:06～7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。
7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5に全ての屋根パネルの取り外しが完了。
 - ・2016/1/8～ 支障鉄骨の解体作業を開始。

[サブドレン他水処理施設の状況]

- ・2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。
9/17～サブドレン他水処理施設による地下水のくみ上げについて、昼間のみの間欠運転から24時間連続運転に切り替え実施。
- ・一時貯水タンクFの当社および第三者機関による分析結果[採取日 1/30]は、同等の値であり、共に運用目標値を満足していることから、2/6 10:06～15:38に海洋へ排水。排水量は794m³。
- ・一時貯水タンクGの当社および第三者機関による分析結果[採取日 2/1]は、同等の値であり、共に運用目標値を満足していることから、2/7 9:58～15:21に海洋へ排水。排水量は770m³。
- ・一時貯水タンクAの当社および第三者機関による分析結果[採取日 2/2]は、同等の値であり、共に運用目標値を満足していることから、2/8 10:18～15:38に海洋へ排水。排水量は766 m³。

[地下水バイパスの状況]

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12のサンプリングを継続実施中。

[1～3号機放水路の状況]

1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて]

<K排水路排水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[H4、H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況]

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

- ・2016/1/1に採取した地下水観測孔No.1-12のストロンチウム90について、前回値(2015/12/1採取)が

12Bq/L に対して 3,200Bq/L に上昇していることを確認。当該箇所は一時的に放射能濃度が上昇したものである。再度 1/2 に採取した分析結果において、ストロンチウム 90 については、前回値(採取日 1/1)に対して 130Bq/L と低下していることを確認。その他の分析結果は、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上